

21日は
オレンジ day

● 9月は世界アルツハイマー月間

国際アルツハイマー病協会（ADI：79の国と地域が加盟）が本人や家族への施策が充実されることを目的に、世界中で啓発活動を行っています。日本（「家族の会」）では、全国各地でリーフレットを配布する活動や記念講演会の開催など、毎年継続して取り組んできました。

全国でシンボルカラーのオレンジのTシャツを着て啓発活動します！



認知症の本人も



京都タワーをオレンジ色にライトアップ（9月21日）



街頭でリーフレット配布

オレンジプランをすすめてみましょう！

厚生労働省は、今年度から「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」をすすめています。早期診断・早期対応により住み慣れた地域で暮らし続けられるように、この計画を応援していきます。

あなたの町でも
取り組んでいます！
「家族の会」の活動
詳しくはこちらで→



私たちは、認知症になっても
安心して暮らせる社会の実現を
目指しています

【本人・家族の絆】

全国の支部で認知症の本人や家族が集まり、悩みや喜びを話し合うつどいの開催。介護体験、役立つ情報など、勇気の出る会報を発行。本部と全国の支部で年間のべ20,000件の相談活動。

【社会への発信】

国・自治体への提言・要望活動や講演会・研修会など普及啓発活動。

1980年に結成、全都道府県に支部（沖縄県は準備会）。
会員11,000名。どなたでも入会できます。

（年会費5,000円）

活動内容、総会アピールなどの詳細は「家族の会」
ホームページをご覧ください。

家族の会 検索

<http://www.alzheimer.or.jp>

公益社団法人
認知症の人と家族の会 代表理事 高見 国生

認知症の
電話相談 0120-294-456 (10:00~15:00)
(土日祝を除く)

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下る京都社会福祉会館2階
TEL 075-811-8195 FAX 075-811-8188

<支部連絡先>

忘れても 心は生きてる 認知症

「ぼけ」でも安心して暮らせる社会を



公益社団法人 認知症の人と家族の会
Alzheimer's Association Japan

“認知症”は、
人ごとではありません

わが国の認知症高齢者は**462万人**
に上ることが、厚生労働省研究班の
調査でわかりました。

四国4県と
島根県の人口の
合計数とほぼ同じ

462万人

※高齢者の7人に1人

“認知症”のことを知ってください

認知症には、アルツハイマー病、レビー小体型認知症などたくさんの病気があります。

病気によって少しずつ症状も異なるのですが、共通する診断基準は、仕事や生活に支障があること、以前と比べ実行機能が低下していること、精神障害がないことなどです。

現在では残念ながら完治しない病気ですが、早期に診断されれば適切な医療やケアで進行を抑えることができます。

しかし、生活に支障が出るため日常的な支援が必要になり、介護する家族は気が休まらず心身ともに疲れてしまいます。また、認知症の本人は「家族に迷惑をかけたくない」と苦しんでいます。そんな家族や本人にとって、社会的な支援だけでなく、親戚、友人、地域住民である、あなたの理解と支えがとても大切なのです。

認知症のこと、考えませんか。

あなたただからできることがあります。

困っている人をみたら声をかけて

ご近所や街中で、行きたい場所がわからなくて困っている人がいたら、笑顔で優しく声をかけてください。不安な時、助けてほしいのは、だれでも同じです。

身近にも介護に苦しんでいる人はきっといます

寄り添ってあげてください。介護者は、親身になって話を聞いてもらうだけで癒されます。

地域の“居場所”づくりに協力を

本人や家族が集い、本音で話せる“居場所”づくりが広がっています。場所の提供やスタッフとしての手助けなど理解ある協力が必要です。

あなたにも役立つ認知症の知識

本やインターネット、映画など認知症のことを知っていただくための情報源は身近にあります。

相談窓口を紹介してあげてください

お住まいの地域包括支援センターや「家族の会」など相談できる場所があります。

認知症の電話相談「家族の会」（京都本部）

認知症の
電話相談  **0120-294-456** (10:00~15:00)
(土日祝を除く)

このマークを見かけたら、
漏かく見守ってください。



つどいで楽しく過ごす若年期認知症の妻と寄りそう夫（神奈川）



認知症支援に取り組むサポーター（千葉）



多くの参加者が集まる認知症の講演会（京都）

安心して暮らせる社会の実現には、社会保障の充実も必要です

私たちは、人としておたがいに励ましあい助けあって、認知症になっても介護者になっても安心して暮らしたいと考えて、そのための活動を進めています。しかし、それだけではどうにもならないときもあります。

そのため「家族の会」は結成のときから、介護を家族まかせにせず社会的に支える“介護の社会化”を願ってきました。介護保険制度の始まりはその願いの実現の第一歩でした。

しかし、いま、消費税を増税する一方で、負担を引き上げ軽度者を介護保険の対象からはずす方向の話がすすめられています。これでは認知症の人も介護する家族も安心して暮らすことができなくなります。

個人が支え合うことと同時に、介護保険や社会保障の充実も欠かすことはできません。

家族の会  総会
アピール

増税の一方で負担引上げ・給付抑制は道理にも合わない 予算の使い道に知恵を絞ろう
(全文はHPで)